2024 年度春学期卒業式・学位記授与式　告辞

下関市立大学
学長　韓　昌完

2024 年度春学期の卒業式・学位記授与式において、下関市立大学は 18 名の卒業生を社会に送り出します。本日は卒業生の皆さんと卒業まで励まし支えてこられたご家族の方々に、大学を代表して心からお祝い申し上げます。

今年、米実業家イーロン・マスク創設のニューラリンク社が、脳とコンピューターを繋ぐ世界初のインターフェース『テレパシー』の実証実験を成功させたことが話題となっています。さらに同社では、人工視覚となりえる視力回復インプラント『ブラインドサイト』も発表しました。これらの技術進歩が実用化に至れば、人間の生活次元を何段階も先に進めることでしょう。しかしながら、このような高度な社会の維持・発展とハイテク人材育成のために、先進国を中心に社会全体の競争が激化しています。ケンブリッジ大学のバーバラ・サハキアンによると、現代人は 1 日に最大 3 万 5000 回の決断を下しているそうです。社会全体の余裕が無くなり過酷な競争の中で決断に疲れてくると、極端な主義や主張、思想が社会の中で大きくなる傾向にあります。

社会心理学者のアリエ・クルグランスキーは、人間は不確実的なことに耐えられないのだと「認知的終結欲求」を提唱しました。大量の情報や答えのない問いに直面した時、私たちの脳には認知的に過大な負荷がかかり、その苦しい状態から逃れるために混沌とした曖昧さに確実性を得たいとする欲求が高くなるそうです。争いの少ない環境では精神的余裕が生まれますので、曖昧な状況や自分の主張が間違っている可能性への寛容さを認められる状態は、終結欲求が低いと言えます。反対に、競争社会を勝ち抜くにはその場での決断が常に必要とされており、終結欲求が高いことが有利に働く場面もあります。さらに、確実性を求める状態であるため、実践力に優れ、秩序を守り、所属集団に献身的になるそうです。ところが、心身が疲弊し余裕がなくなってくると、高くなり過ぎた終結欲求を満たそうと、脳はわかりやすい結論に飛びついて早く楽になろうとします。今の社会、ネットワークにより一人の人間が得られる情報の量が増えたことはもちろん、グローバリゼーションやダイバーシティなどの観点で思考の柔軟さや寛容さなど情報の質への適応が求められています。また、経済格差も終結欲求を高める要因とされ、SNS などを通して持てる者の存在を身近に感じられるがゆえに、持たざる者は社会での存在感さえ失われたとまで思うこともあるようです。このような状況では、現実的な未来が見えてこない不安から逃れたくて、極端な主義や思想に引っ張られやすくなってしまうでしょう。わかりやすい結論からもたらされる安心感は、脳を一時的に楽にすることはできるかもしれません。しかし、そこで思考を止めてしまうとますます極端な方へと流れていきます。

皆さんの中にも終結欲求があり、環境によって低くなったり高まったりしていることを自覚してみてください。これからの人生で極端な考えに陥りそうになったときは、精神的余裕が無くなって終結欲求が高まっているときです。一度湧いてしまった欲を抑えようと思うと大変ですが、余裕を取り戻すために心理的に安定する環境を準備しておくことはできます。それは、安心できる人と一緒に居ること、自分が好きなことに没頭できるところ、落ち着いて深い思考ができる時間など、一人ひとり違うでしょう。もし、居場所の一つに下関市立大学を選んでくれたならば、私たちはいつでも皆さんを受け入れ、学び、考え続けることをサポートします。

未来は不確実で不安定ですが、極端に恐れる必要はありません。これからの人生の中で、自分の居場所をつくってください。どのような世界になったとしても、幸せや希望を自分で見出す手がかりになるでしょう。